

6) トルコギキョウに発生したチャノキイロアザミウマ（新規系統）に対する主要薬剤の殺虫効果

(1) 目的

2013年に県内で新たに発生が確認されたチャノキイロアザミウマ（新規系統）に対する主要な薬剤の殺虫効果を確認し、今後の防除の資とする。

(2) 材料および方法

① 供試虫

2013年6月に足利市のトルコギキョウほ場から採集したチャノキイロアザミウマ（新規系統）の雌成虫を供試した。

② 供試薬剤

供試薬剤を表1に示した。薬剤は表1の濃度に希釈し、展着剤としてマイリノーを最終濃度20,000倍となるように加えた。対照区は展着剤のみを加えた水道水を用いた。

③ 検定方法

検定法は柴尾（2013）のソラマメ葉片浸漬法を参考に、トルコギキョウの葉を用いて行った。検定は、約1.2cm×1.2cmのトルコギキョウ葉切片を作成し、薬液に浸漬・風乾後、ろ紙片、供試虫（15頭程度）と一緒にスチロール容器に入れ、上部をパラフィルムで封じて25℃条件下に置いた。48時間後（摂食阻害剤で遅効的なフロニカミド、ピリフルキナゾンは96時間後）に生死を判定し、Abbottの補正式で補正死虫率を算出した。

$$(\text{補正死虫率}(\%)) = \{ (\text{対照生存虫率} - \text{処理生存虫率}) / \text{対照生存虫率} \} \times 100$$

(3) 結果

- ①スピノシン系、マクロライド系の薬剤の殺虫効果は高かった。
- ②アセタミプリド、ニテンピラム、アセフェート、ペルメトリン、クロルフェナピル、ピリダリル、フロニカミドの殺虫効果は低かった。
- ③ピリフルキナゾンは遅効的であるが殺虫効果は高かった。

表1 トルコギキョウのチャノキイロアザミウマ（新規系統）に対する主要薬剤の殺虫効果

薬剤名	商品名	薬剤系統名	試験濃度(倍)	補正死虫率(%)
スピネトラム水和剤	ディアナSC	スピノシン	5000	100
<u>スピノサド水和剤¹⁾</u>	<u>スピノエース顆粒水和剤</u>	スピノシン	5000	100
<u>エマメクチン安息香酸塩乳剤</u>	<u>アファーム乳剤</u>	マクロライド	2000	100
アセタミプリド水和剤	モスピラン顆粒水和剤	ネオニコチノイド	4000	3
ニテンピラム水和剤	ベストガード水和剤	ネオニコチノイド	1000	20
アセフェート水和剤	オルトラン水和剤	有機リン	1500	19
<u>ペルメトリン乳剤</u>	<u>アディオン乳剤</u>	合成ピレスロイド	3000	9
<u>クロルフェナピル水和剤</u>	<u>コテツフロアブル</u>	ピロール	2000	29
<u>ピリダリル水和剤</u>	<u>プレオフロアブル</u>	その他	1000	1
<u>フロニカミド水和剤²⁾</u>	<u>ウララDF</u>	その他	1000	0
<u>ピリフルキナゾン水和剤²⁾</u>	<u>コルト顆粒水和剤</u>	その他	3000	92
対照区 ³⁾				94

1)薬剤名の下線および斜体は、花き類・観葉植物の“アザミウマ類”に対して薬剤登録が無いことを示す。

2)フロニカミド、ピリフルキナゾンの2剤の死虫判定は96時間後に行った。

3)対照区は生存虫率の値を示した。